

有珠山の「噴火」ってどんな現象？

「噴火」というと、まず最初に「噴煙」を思い浮かべる方が多いと思います。しかし火山の噴火では、噴煙が上がるだけでなく、さまざまな現象が起こります。有珠山は 1663 年以降、8 回の噴火活動があったと言われてはいますが、具体的にどのようなことが起こっていたのでしょうか？

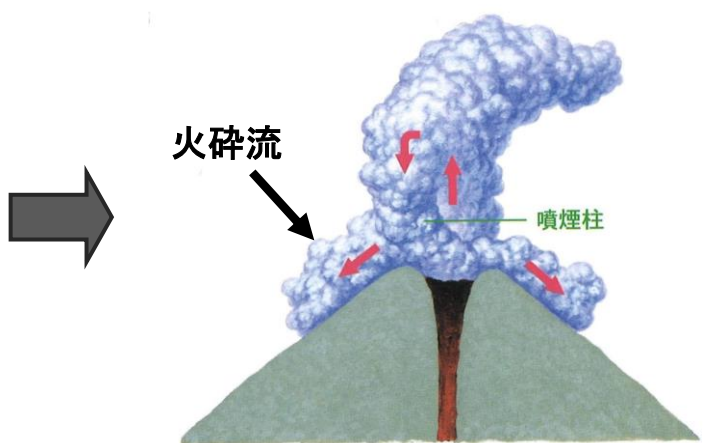
今回は、今までの有珠山噴火で起きた典型的な噴火現象について、順を追ってご紹介します。

① 地震の後、噴煙が上がる



マグマが地下から上がってくる時に発生する地震が続いた後、爆発的に噴煙をあげて、広範囲に噴出物を放出します。1977 年の噴火のような、噴煙を高く上げる噴火を「プリニー式噴火」と言います。

② 高速で流れ下る火砕流が発生する



その後、ガスと噴出物が高速で山を流れ下る「火砕流」が発生します。噴火活動の中では最も人的被害の大きい現象で、1822 年の噴火では、約 100 名がこの火砕流で亡くなりました。※火砕流の発生要因については、次回詳しくご紹介します。

③ その後、溶岩ドームができる

大有珠



その後、溶岩が地面を盛り上げ、大有珠のような「溶岩ドーム」が形成されます。有珠山では、8 回の噴火のうち、この①②③のパターンが 3 回ありました。

防災マップを確認しよう



山頂噴火の場合の危険区域予測図や、想定される現象が掲載されています。市・町の窓口や、洞爺湖有珠山ジオパークのホームページからもダウンロードできます。